

● 四 国

岸 啓 子

コロナにより四国の音楽状況も全てが変化した。音楽との接点を制限された人々の中で生の音楽の大切さが再認識される一方で、現実的な解決策をネットの中に見出すことにもなった。これまで補助的手段とみなされてきたネット配信・動画の中にクラシック音楽も居場所をしっかりと確保した感がある。

四国唯一のプロオーケストラ瀬戸フィルは第32回定期（チェロ：宮田大 指揮：三ツ橋敬子 ドヴォルザーク：チェロ協奏曲op.104他）、森のコンサート（指揮：小森康弘 ユーフォニアム 佐藤采香）実施後、第33回定期が中止となった。シカメイトコンサート、学校巡回公演等地域密着型の活動は回数を減らして継続し、年末にはクリスマスオンラインコンサートin坂出を開催した。

演奏会の空白を埋めるべく瀬戸フィルはHPに動画を積極的にアップした。『スターウォーズ メインタイトル（抜粋）』のリモート合奏には、コロナウイルス軍対地球防衛音楽隊（指揮：林直之）の宇宙戦争エピソードを重ね、「四季 春」では猪子恵が弦4パートを多重録音・録画して画面上に4人（？）の奏者として現れ、チェロとのリアル合奏風に見せる等楽しい動画を提供した。またフルート4人のリモートアンサンブルの神技や、ヴァイオラ奏者高野によるヴァイオリンとヴァイオラの多重録音La Felicidad Inestimable（高野正明作）のアルカイックな響きと海の映像の調和の妙等、魅力ある世界を展開している。

生誕250年を迎えたベートーヴェンは多くの演奏会でプログラムを飾る筈だったが、日本の第9演奏源流の地丸亀市と鳴門市で長年継続してきた第9演奏会は中止となった。これ以外もオーケストラ関連は大半の定演が中止や延期となった。愛媛交響楽団（47・48回定期、四国フィルハーモニー管弦楽団高知公演）、高松交響楽団（123回定期 ベートーヴェン交響曲全曲演奏企画）、高知交響楽団（164・165回定期）、四万十国際音楽祭原則中止の余波を受けた中村交響楽団（88回定期）等である。この状況下徳島交響楽団（指揮：山田啓明 ベートーヴェン第7番交響曲）は厳重な感染予防対策を行って定演を実施、高揚感あふれる演奏で聴衆を大満足させた。

UDON楽アーティストリレーコンサート百花繚乱（高松）はYoutubeチャンネルを開設し、9月から年末にかけてカウントダウンコンサート100回を動画配信した。内容は、自宅での演奏、リモート合奏、ピアノの弾き歌い、無観客コンサートなど音楽も演奏形態も多種多様で、チャンネル登録さえしていれば手元に届けられ、さりげなく傍にあって知らぬ間に存在感を増してくるしかけになっている。

話題になった演奏会のひとつには昨年の高松国際ピアノコンクール入賞者を中心にしたコンサートシリーズ（2月）があった。

オペラえひめ（第13回）は《魔笛》を演奏会形式で上演（指揮：金正春 演出：田中敬子）、第14回《愛の妙薬》は22年まで延期となった。四国二期会香川支部はまるがめクラシックギャラリーコンサート等への賛助出演、屋島での合唱、「誰もいないコンサート～オペラ・ガラ・スク림・プレコンサート」（無観客演奏・オンライン配信）を実施した。

コレギウム・ムジクム高松第24回演奏会は「ロマンツェ・カ

ンタービレ」（大山補筆版）、オラトリオ「オリーブ山上のキリスト」（指揮：大山晃 イエス：若井健司）等ベートーヴェンを好演、珍しい選・編曲も話題を集めた。高知パッサカリア・タフエライン（主宰：小原浄二 第23回in東京）、松山パッサカリア合唱団（主宰：橋本眞行 第50回）、鳴門アカデミー合唱団（指揮：山田啓明 ヨハネ受難曲）いずれも中止となった。せとうち国際古楽祭は中止後「DIGITAL デリバリー古楽」として一部復活し、有観客・デジタル配信チェンバロコンサート（川口成彦）を開催、古楽インタビュー動画シリーズをHPにアップした。